

歴史文化の道 一多摩ニュータウンの尾根筋一

「よこやまの道」の位置する尾根筋は、古代より武蔵野と相模野の双方を結ばれる高台として、また西国と東国を結ぶさまざまな交通の要衝として活用されてきました。

この尾根筋には、鎌倉古道（鎌倉街道早ノ道、鎌倉街道上ノ道、軍事戦略鎌倉道）や奥州古道、奥州街道、古代の東海道、などの重要な歴史街道（古街道）が縦走、横断し、その痕跡やさまざまな伝説等が語り継がれています。

古代から中世～江戸時代に渡って政治、軍事、文化、産業、社寺・聖地参詣などを目的として、東国～西国間の交易を行なう商人や鎌倉武士団、諸国霊場を巡る巡礼者や都の貴人、新選組が往来したと推測され、歴史とロマンを感じるこの道は道となっています。

よこやまの道の由来

一万葉集にも詠われた防人の道一

赤駒を山野に放し捕りかにて
多摩の横山徒歩ゆか遣らむ

万葉集（巻二十・四四一～七）豊島郡の上野村神宮が、宇成郡某女この万葉歌は、「赤駒を山野の中に放牧して捕らえられず、夫に多摩の横山を歩かせてしまうのだろうか」という防人の妻のこぼれ歌です。

東国から遠く北九州で国防の兵役につく防人は、再び故郷の土を踏むことはほとんどありませんでした。武蔵野を眺望できる横山の尾根道で故郷を振り返りながら、家族との別れを惜しんだ防人の妻が呼かれます。『よこやまの道』はこの万葉歌の「横山」から名づけました。

一横に長く連なる尾根のシルエット

多摩丘陵は武蔵の国府（府中）から眺めると横に長く連なる山々でした。夕暮れにはその姿がシルエットで浮かび、「多摩の横山」、「眉引き山」とも呼ばれていました。

案内図



発行 都市機構（旧都市基盤整備公団）・多摩市
監修 都市機構 東日本支社 多摩事業部
TEL：042-373-8107

多摩ニュータウンホームページ
<http://www.ur-net.go.jp/tama/index.html>

※上記のアドレス等は変更になる場合があります。
※本内容の一部または全部を無断で複製・転載することを禁じます。
2009-08

「よこやまの道」は、万葉集において多摩の横山と詠われた多摩丘陵の尾根部に位置し、「多摩の自然と歴史にふれあう道」を基本テーマに整備されました。既存の山路や尾根に沿って残された自然や緑を積極的に活かしながら、製材内の散策路や休憩広場、多摩市域を一貫できる展望広場等が整備され多摩丘陵や多摩ニュータウンの風景とともに、四季折々の自然に親しみ地域に残る史跡や伝説の歴史文化にふれあうことのできる遊歩道です。

「よこやまの道」は、都市機構（旧都市基盤整備公団）により整備が行われた跡地と既存の道路などにより構成されており、ルートは多摩東公園（丘の上広場）～長池公園手前までの約10.0kmが整備されています。

歴史観察のポイント

1 瓜生黒川往還

川崎市黒川と多摩市永山の瓜生を結んでいた往還道です。黒川の「黒川尻」や「神倉丸跡」などを八王子方面や江戸市中に運ぶのに使われていました。

2 古代東海道と丸山城

古代東海道は現東海道と異なり、相模国府～武蔵国府間は多摩丘陵を通過していました。黒川配水場の高台は丸山城とも呼ばれ、古代東海道の物見や風櫃（のろし）台とも考えられます。

3 分倍原合戦前夜の野营地

鎌倉幕府滅亡の戦で知られる分倍原の合戦前夜、幕府軍の北条義家軍二十万騎の大軍勢は、このよこやまの道の尾根で息を留めて一夜を明かしたと伝えられています。

4 並列する礎の古街道

地図のない時代、現在地や目的の方向を知るため、旅人は眺望の利く尾根を通過しました。よこやまの道の尾根には数本の古道が並行する大規模な古道跡があります。

5 古道五差路

古道が集まっている五差路です。野津田や金井、本町田へと続く古道が通っていました。交通の要衝であった小野路の宿を避けて鎌倉へ向うことのできる近道古道だったようです。

地図のマーク



バス停は最寄りものだけを示してあります。詳細についてはバス会社の各営業所にお問い合わせください。
○京王東横線 案内センター
電話 03-3328-2121
○神奈川中央交通 多摩営業所
電話 042-878-6565
○小田急バス 多摩営業所
電話 042-968-4171

--- よこやまの道

--- アクセス散策ルート

..... 推定古道ルート

注意 「よこやまの道」以外の西道は推定ルートです。危険な崖や私有地などがあり、現在は通行できない箇所があります。

散策距離

鎌倉街道～多摩東公園 3.3km



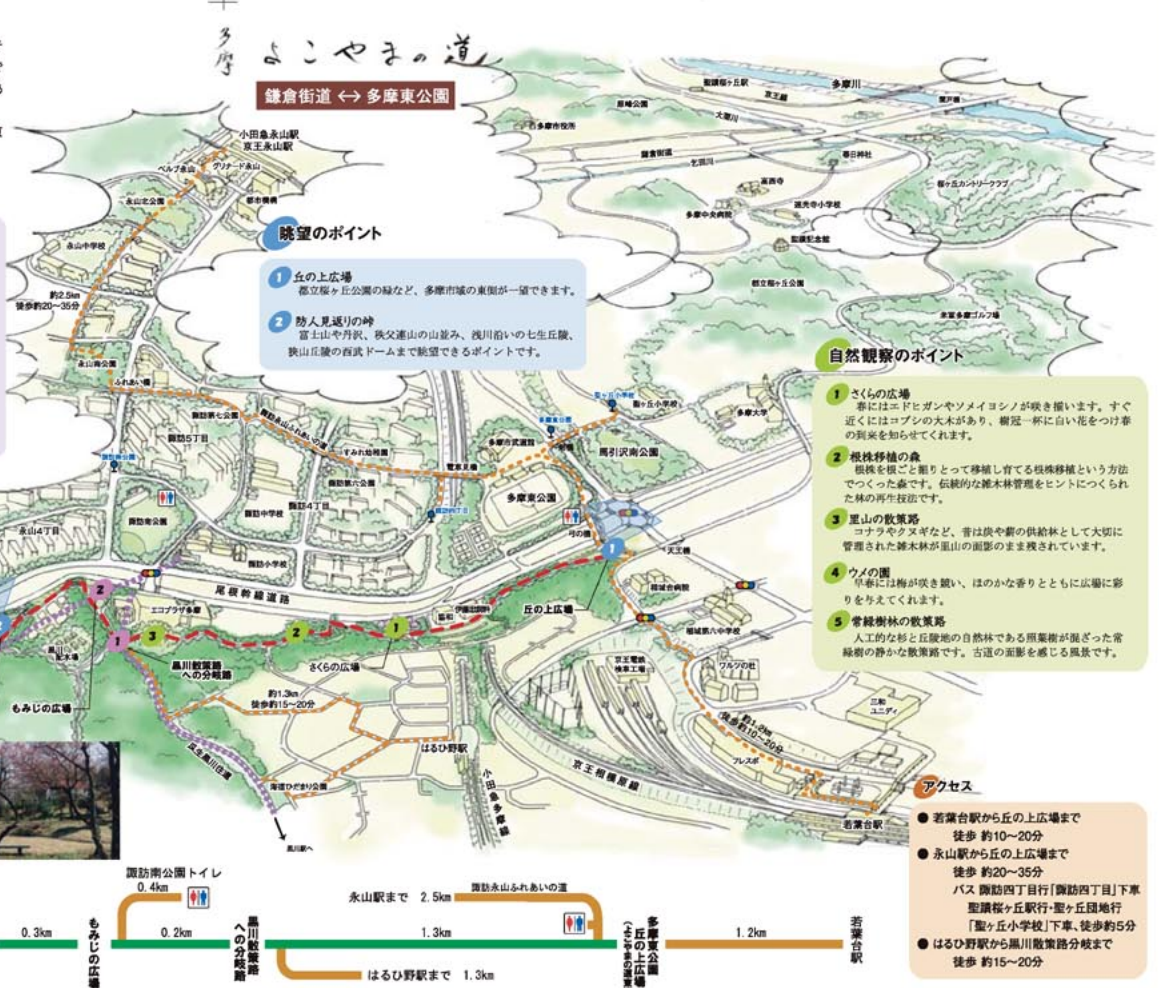
眺望のポイント

1 丘の上広場

都立飯ヶ丘公園の緑など、多摩市域の東側が一望できます。

2 防人見返りの峠

富士山や丹沢、秩父連山の山並み、浅川沿いの七生丘陵、狭山丘陵の西武ドームまで眺望できるポイントです。



自然観察のポイント

1 さくらの広場

春にはエドヒガンやソメイヨシノが咲き揃います。すぐ近くにはツブシの木本があり、樹冠一杯に白い花をつけ春の到来を知らせてくれます。

2 根柢移植の森

根柢を根ごと掘りとりて移植して育てる根柢移植という方法でつくった森です。伝統的な雑木林管理をヒントにつくられた林の再生技法です。

3 里山の散策路

コナラやクスギなど、昔は炭や薪の供給材として大切に管理された雑木林が里山の面影のまま残されています。

4 ケイの園

草花ははげしく咲き、ほのかな香りとともに広場に彩りを与えてくれます。

5 常緑樹林の散策路

人工的な丘と丘陵地の自然林である照葉樹が盛った常緑樹の静かな散策路です。古道の面影を感じる風致です。

アクセス

- 若葉台駅から丘の上広場まで 徒歩 約10～20分
- 永山駅から丘の上広場まで 徒歩 約20～35分
バス 諏訪四丁目[諏訪西丁]下車 聖蹟桜ヶ丘駅行「丘上団地分」 「聖ヶ丘小学校」下車、徒歩約5分
- はるひ野駅から黒川散策路分岐まで 徒歩 約15～20分

よこやまの道



赤駒を山野に放し捕りかにて
多摩の横山徒歩ゆか遣らむ

万葉集

よこやまの道の自然

よこやまの道には多摩の里山の自然が残されています。野に咲く花や、飛び交う蝶、小鳥のさえずりなど、季節ごとに移り生き物たちと出会うことができます。



散策の約束

以下の約束を守って楽しく散策しましょう。

- ① ゴミは各自で持ち帰りましょう。
- ② たばこの投げ捨ては山火の原因になります。絶対にやめましょう。
- ③ 自然の植物はみんなのもので、植物を採るはやめましょう。
- ④ 夜間の利用はご遠慮ください。
- ⑤ 山道や木階段があります。また、季節によりマムシやスズメバチが出る場合があります。十分に注意して散策しましょう。
- ⑥ 散策ルートの近くには私有地があります。むやみに立ち入らないようにしましょう。

眺望のポイント

- ③ 中坂公園裏
小野路の緑の里山が見渡せ、冬の天気の良い日は、遠く別所平島まで見えるポイントです。
- ④ ガスタング裏
稲刈の風景、多摩センターのビル群など、ニュータウンが見渡せる眺望ポイントです。
- ⑤ 展望広場
長池公園の緑とニュータウンの街並、蓮生寺までが見渡せる眺望ポイントです。

自然観察のポイント

- ⑥ シラカシの太木
シラカシは多摩の自然林構成種の一つです。そのシラカシの太木が尾根に覆われています。多摩の歴史を見てきた生き証人です。
- ⑦ サクラの並木
一本杉公園通りはソメイヨシノの並木道です。春には花のトンネル、秋には紅葉が見事です。

多摩 よこやまの道

別所配水場 ↔ 鎌倉街道

- ⑧ 一本杉公園のスタジアム
市指定天然記念物のスタジアムの太木があります。樹齢400年、高さ16m、一本で森のような緑の枝を広げています。
- ⑨ 鎌倉林の散策路
クスミヤコナツの明るい落葉樹の中を多く、鎌倉林の散策路です。

歴史観察のポイント

- ⑥ 大軍勢が通った現鎌倉街道の谷
現在の鎌倉街道が通る谷は、南北に伸びた自然の谷です。戦乱の時代には源頼朝や新田義興、上杉謙信らの大軍勢がこの谷を通過していたと考えられます。
- ⑦ 新選組も通った通称鎌倉東街道
鎌倉街道の一つに、関所を避けた通称鎌倉東街道があります。後に新選組となる土方歳三や神田陸河は、日野野方面から小野路の田舎者に導くのにこの道を使っていたとされています。
- ⑧ 奥州古道と石仏群
この付近には奈良や京都の都まで続く「奥州古道（国府街道）」が通っていました。近くには、古道筋にあった石仏たちが集められた石仏群が残されています。
- ⑨ 古戦場伝説
鎌倉幕府を滅亡に追い込んだ新田義興軍鎌倉攻撃の古戦場の一つがこの付近です。近くには戦の犠牲者を持った草鞋や戦に関わる伝説が残されています。
- ⑩ 奥州街道
『よこやまの道』には東北へ向かう「奥州街道（最も古い奥州古道）」が通っていました。源頼朝の祖父の頼朝、義家の奥州征伐伝説のある神社（大國魂神社、百草入禰宮、新納八幡宮）はこの道筋にあります。
- ⑪ 小山田氏
平安時代、『よこやまの道』のあたりは朝廷管理の馬の牧場で、奥州古道を使って馬を運んでいました。小山田氏はこの牧場を経営する奥官（別当）として秩父から赴任してきた一族でした。

地図のマーク



アクセス

- 南大沢駅から別所配水場まで
徒歩 約25～40分
- 京王堀之内駅から別所配水場まで
徒歩 約40～55分
- 鹿木田駅から鹿木田口まで
徒歩 約10分

散策距離



注意 「よこやまの道」以外の古道は推奨ルートです。危険な崖や私有地などがあり、現在は通行できない箇所があります。